



ネクタイをしめて

小倉 敬

(神奈川)

市議会の予定を手帳に記さなくなり再任用勤務二年目

ネクタイを朝にはかたくしめている辞めちまおうか…そうもいくまい

週末の競馬の成果をひそやかに話すふたりがいる月曜日

はなやかに朝から笑い声が立つとなりの部署の「課長は？」「休み！」

コピー機と職員ふたり雨の日は調子が悪いと駄々こねるなり

老害と思われたくはないのだが、まず口にして吐き出す言葉

言われたくはないよな一度は退職をした再任用の職員になぞ

ヒマワリのような男がうちの課は欲しいと思う一人と言わず

一言も話さず過ぎてゆく午後をしゆるりぱらりとページ繰る音

〈ここを押してください〉ボタンがあったとは佇んでいた自動ドア前

年寄りしか居やしねえや、おっととと六十二歳なるのだ俺も

「診察室へお入りくださーい」よいことがありそうに呼ぶドクターもいる

バイバイと孫は手をふり使用済みオムツ二つを残し帰りぬ

この家を離れることを帰るって言うのだなあ娘らはもう

この家は実家と呼ばれだしてからちよっぴり古くなつた気がする

このごろの私

一日一首、日記のように歌を作れないものかと、チャレンジを続けている。ときに五日分くらい、ふり返って作るなんてズボラなこととしてしまいが、飽きっぽい性格のわりには不思議と続いている。



古民家カフェ

新明 恭子
(香川)

このごろの私
今年はブラックベリーが豊
作で約十キロほど収穫しまし
た。お嫁さんがジャムにして
くれます。真っ赤なジャムを
たっぷりパンにのせ、ヨー
グルトにも入れて朝食を楽し
んでいます。

リノベせし古民家カフェのみんなみにあかるくゆらぐ青もみじ見る
ぬばたまの黒き大梁を這うコードつなぐ碍子の白き点々
アメリカン飲みつつ見上ぐ大梁のゆらぐ光に手斧の凹み
顔の前にうわーんと飛べる蚊柱を団扇ではらう夏の夕さり
本降りの雨はあがりてユスリカは飛ばず青田の風すがすがし
つぎつぎと傷みしパーツ取り替えて吾の関節サイボーグ化せり
屈まりてこぼさぬように水虫のくすりを塗れり右の親指
文月の友の誕生日ゴージャスにとうなぎ屋に行く丑の日待たず
誕辰の友と祝える半身なる三河のうなぎに口はよろこぶ
吾は五十、友は六十で寡婦となりともに介護の義父母いま亡し
寡婦三人海外旅行の資金にとプロに教わるNISAと投資
初生りのすいかを供え報告す君の初孫結婚するよ
文月の十七日に入籍す（一粒万倍日）孫は選びて
亡き友の夫よりメロン届きたり二十年贈る供花のお返し
二十年亡き友に贈る供花はいま安否確認のツールとなりぬ